

理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力を育成する国語科学習指導の工夫 — 文学的な文章を「6つの読みの観点」で読み、推薦文を書く活動を通して —

呉市立坪内小学校 加島 摩有

研究の要約

本研究は、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力を育成する国語科学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力を、必要な語句や文を引用したり要約したりして根拠を明確にし、本や文章を分析的に読んで解釈したことに対する自分の感想や意見、評価を書く能力とした。この能力を育成するために、文学的な文章を「6つの読みの観点」で読んで、推薦文を書く学習活動を設定し、「書くこと」と「読むこと」を関連させた指導を行った。その結果、作品の特徴を捉え、引用した語句や文章を用いて、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力の向上が見られた。このことから、文学的な文章を「6つの読みの観点」で読み、推薦文を書く活動を取り入れることは、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力を育成することに有効であることが分かった。

キーワード：「書くこと」と「読むこと」の関連指導 「6つの読みの観点」

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成20年）の国語第5学年及び第6学年の内容「B書くこと」の指導事項に、「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。」¹⁾とある。また、「C読むこと」の指導事項に、「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる」と。²⁾と示されている。

これらの指導事項に関わって、平成25年度全国学力・学習状況調査では、推薦文を比べて読み、推薦している理由、それぞれの本や文章の読み方の違いを捉える設問の無答率が高い。

また、平成25年度「基礎・基本」定着状況調査においては、「書くこと」「読むこと」の複合領域で、理由や事例を挙げた記述の設問の通過率がいずれも30%未満である。

どちらにも共通する課題は、読み取ったことを基にして、理由や根拠を明確にして自分の考えを書くことである。PISA調査における読解力と同様で、テキストを解釈し、根拠を明確にして自分の考えを記述する力の育成が求められている。

以上のことから、読んで解釈したことを基に、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力を授業の中でどのように育成していくかということに

ついて、学習指導の工夫が必要であると考える。

II 研究の基本的な考え方

1 理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力とは

課題である「読んで解釈したことを基に、理由や根拠を明確に書く力」について、小学校学習指導要領解説国語編（平成20年、以下「解説」とする。）から考察する。第3学年及び第4学年の「C読むこと」の言語活動例エにおいて、「紹介を目的とした説明では、書き抜きや要約、引用した部分を理由や根拠として示すことが有効である。」³⁾と書き抜きや要約、引用の有効性が述べられている。

一方、「読むこと」における記述に関して、「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～（小学校編）」（平成24年）では、「本や文章を分析的、あるいは総括的に読み、その主張や意図を解釈する。そして、それらに対する自分の考え（感想や意見、評価）を形成しながら、まとまった記述にしていく」⁴⁾と述べられている。その際に、留意すべき点として、自分の考え（感想や意見、評価）を明確に書くことや、目的に応じて本文を引用したり要約したりすることが例

示されている。

以上のことから、本研究では「理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめられる能力」とは、「必要な語句や文を引用したり要約したりして根拠を明確にし、本や文章を分析的に読んで解釈したことに対する自分の感想や意見、評価を書く能力」とする。

2 文学的な文章における指導の工夫

(1) 文学的な文章における「書くこと」と「読むこと」をつなぐ言語活動

「平成25年度全国学力・学習状況調査の報告書 小学校国語」では、「書くこと」と「読むこと」の関連を図りながら指導することの重要性が述べられている。文部科学省の「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」と国立教育政策研究所の「評価規準作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 国語】」において示された「書くこと」と「読むこと」の複合単元の実践事例は、表1の通りである。

表1 「書くこと」と「読むこと」の複合単元の事例

事例	文種	文章の類別	出典
事物について説明した文章を読み紹介したことを書く事例	紹介文	説明的な文章	言語活動の充実に関する指導事例集
読んで疑問に思って調べたことを基に報告文に書く事例	報告文	説明的な文章	言語活動の充実に関する指導事例集
文章や資料を読む過程を自分が調査報告文を書くことにつなげる事例	調査報告文	説明的な文章	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料

表1から分かるように、「書くこと」と「読むこと」の複合単元の実践事例には、説明的な文章が多く、文学的な文章はまだ見られない。これは、説明的な文章の指導事項には、文章構成や自分の考えの論証の仕方、読み手を説得するための論の展開などの書き方を学ぶことがあるからだと考える。

文学的な文章において、「読むこと」の言語活動例として、「解説」には、本の帯やリーフレット、パンフレットなど、書く活動も例示され、実践も多い。これらのほとんどが、「読むこと」を目標にした単元の中で行われ、評価も読む能力の観点で行われている。書く活動を取り入れているが、「書くこと」の領域と関連させた指導がなされていないものが多い。そこで、「読むこと」と「書くこと」の領域を関連させて指導することで、「読み取ったことを基にして、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く」という課題の改善を図ることができると考える。

以上のことから、本研究では、文学的な文章において、「書くこと」と「読むこと」の複合単元での実践例を提案することとする。「書くこと」と「読むこと」をつなぐ単元を貫く言語活動を設定することで、効果的な指導を行いたいと考える。

(2) 「書くこと」と「読むこと」をつなぐ言語活動としての推薦文

本研究では、「書くこと」と「読むこと」をつなぐ言語活動として、推薦文を書く活動を設定する。

推薦について、「解説」によると、「推薦者が、対象の特徴を深く理解し、そのよさを相手に説明することが求められる。」⁵⁾とされる。また、「解説」の「B書くこと」の言語活動例では、「確かな理由や根拠に裏付けられていることや、他のものと比較してのよさなどをとらえることができるよう指導する必要がある。」⁶⁾と述べられている。

水戸部修治（2013）は、「推薦」において必要となる要件として「推薦対象となる事物や人物のよさをよく理解した上で多くの人に納得してもらえるような推薦理由を明確にする。」⁷⁾と述べている。

「解説」では、本を読んで推薦文を書く言語活動について、「本の特徴をとらえて推薦するようする。そのために、本をよく読み込み、相手に伝わるような構成や推薦するための言葉などに注意して叙述を整えることが欠かせない。」⁸⁾と述べられている。

つまり、推薦文を書くためには、よく読むことが必要であるとともに、書いたものは、相手に伝わるものでなければならない。それは、読む能力と書く能力の両方が求められる言語活動である。

これらのことから、推薦文を書く活動は、「読むこと」と「書くこと」を関連付ける言語活動として、適切であると考える。

(3) 文学的な文章を読む際の「6つの読みの観点」を生かした自分の考えをまとめの活動

言語活動として推薦文を書く活動を位置付けると、児童は、単元導入時から、推薦するために作品の特徴を捉えようとして読むことになる。

「平成25年度全国学力・学習状況調査の報告書 小学校国語」では、「本や文章の特徴を捉えて推薦するためには、まずは推薦の観点を知識として獲得し、その観点に基づいて本や文章を繰り返し読み、相手に分かりやすく推薦することが求められる。」⁹⁾と述べられている。本研究における「6つの読みの観点」とは、同報告書で、「物語を推薦するときに注目する6つの読みの観点」として初めて具体的に示されたものである。次ページの表2に示す。

表2 物語を推薦するときに注目する6つの読みの観点

ア	文章の種類や形態（ジャンル）
イ	登場人物（人物像、人物相互の関係）
ウ	構造・展開（「人物と状況設定・事件の発端・展開・山場」、「起承転結」）
エ	表現・叙述（場面についての描写、文体、人称）
オ	意図（ものの見方や考え方）や題材（人・もの・こと）
カ	作者（作者の生き方や考え方、作者に影響を与えた人・もの・こと）

「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」の指導事例においては、どのような叙述に着目して文章を解釈するのかという手掛かりをもって読むことが有効だとされている。叙述に着目する手掛かりとして、「視点」や「観点」をもった読みが有効だということについては、すでに、瀬川榮志、白石範孝、鶴田清司、田近淳一、樺山敏郎らが述べているとおりである。これらの著者の文献における「読みの観点」と「6つの読みの観点」との対応関係を整理し、表3に示す。

表3 文献で示された読みの観点と「6つの読みの観点」

文献	読みの観点	6つの読みの観点
瀬川榮志（2007） 「国語力をつけるワークの開発No.13 心情を読み取る文学文の指導」	・粗筋 ・情景 ・場面 ・心情 ・主題	ウ イエ ウエ イ オカ
白石範孝（2011） 「3段階で読む新しい国語授業」 (物語教材の10の観点)	設定①時・場所 人物②登場人物 ③中心人物 ④語り手 事件⑤事件 ⑥大きく変わったこと 関係づける ⑦3部構成 ⑧お話の図・人物関係図 ⑨一文で書く ⑩おもしろさ	ウ イ エ ウ ウ ウ イウ
鶴田清司（2012） 「対話・批評・活用の力を育てる国語の授業—PISA型読解力を超えて—」	・クライマックス ・首尾照応 ・反復表現 ・視点（視角の転換） ・中心人物（主役一対役）	ウ ウ エ エ イ
田近淳一（2013） 「創造の〈読み〉新論—文学の〈読み〉の再生を求めて」 (再読みの視点)	・人物の性格とシチュエーションの〈読み〉 ・人物の言動の〈読み〉 ・発端と結末との間の関係の〈読み〉 ・クライマックス（あるいは物語の屈折点）の〈読み〉 ・作品の全体構造の〈読み〉 ・叙述のうえに表れた語り手の立場や見方(判断) ・作品構造のうえに表れた語り手の立場や見方(判断)	イ イ ウ ウ エ エ
樺山敏郎（2013） 「実践ナビ！言語活動のスメ モデル30」	・本の名前 ・本のジャンル ・作者・筆者 ・作品の背景・エピソード ・登場人物 ・あらすじ ・感想・評価 等	ア カ イ ウ

「6つの読みの観点」には、これらの文献における「読みの観点」が網羅されていることから、「6つの読みの観点」は、「読みの観点」として妥当であるといえる。

以上のことから、「6つの読みの観点」は、読む際に分析的に読むことができ、推薦文を書く際に、

自分の考えの根拠や理由を明確にすることに有効であると考える。

なお、「6つの読みの観点」は、児童用に「6つのおすすめポイント」と提示し、観点名も分かりやすいものにする。また、児童にとって、「6つの読みの観点」を使って読むことは初めてとなるため、教材文の学習では、いくつかの観点で読む練習をする。また、一つの観点でより分析的に深く読むために、観点ごとの小グループを作り、話合いや交流活動を取り入れることとする。

①ジャンル ②登場人物 ③あらすじ・事件・クライマックス・ラスト ④表現や文章 ⑤テーマ ⑥作者（作者の考え方）

児童に提示する「6つのおすすめポイント」

本研究では、この「6つの読みの観点」で捉えた作品のよさを、推薦文に書く際に、推薦する理由や根拠として示す。

「解説」第5学年及び第6学年「B書くこと」の記述に関する指導事項において、「『引用』して書くとは、自分の考えを根拠付けたり、具体的な例を示したりする際に、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して、自分の表現に取り入れることである。」¹⁰⁾と述べられている。

これらのことから、「6つの読みの観点」で捉えた特徴を推薦理由として、本の語句や文を引用して推薦文に書くことで、自分の考えをまとめていくことができると言える。

以上のことから、本研究では、前述の「理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力」の定義に基づき、推薦文に「自分の考えをまとめる」とは、

「本や文章を分析的に読んで特徴を捉え、引用した部分に対する自分の感想や意見、評価を根拠として推薦理由を書く」とする。

（4）本単元における言語活動と並行読書

水戸部修治（2013）は、平成24年度全国学力・学習状況調査小学校国語B問題の正答率と読書量の関係において、「『しんどい子』ほど、日常読書をしていない」¹¹⁾と分析している。また、授業において、「目的なく教え込まれた知識は剥落しやすいばかりか、教材文の読みには機能する知識だとしても、自ら選んだ作品では機能しないといったケースが極めて多い。」¹²⁾と述べている。さらに、水戸部（2012）は、「45分間に中に閉じた能力、つまり、『与えられた文章を与えられたとおりに答えを見つけて読む』というだけでは足りない」¹³⁾と、授業において、教

科書教材だけでなく、読書活動を取り入れることの重要性を述べている。

そこで、本研究では、「おすすめの本の推薦文を書く」という単元を貫く言語活動を設定し、教材文で学んだ読み方を生かして、自ら選んだ本を読む読書活動を授業の中に取り入れる。並行読書の本については、幅広い種類を児童の人数分以上用意し、自分が読みたい本を選択できるようにする。教材文「ヒロシマのうた」は、特徴として「ジャンル」が捉えにくいため、並行読書の本にはSFや推理小説など「ジャンル」に特徴がある本を用意する。このように、日常生活の読書により近い環境を整えたいと考える。

「読むこと」の単元計画について、水戸部（2013）は、通常は教科書教材の学習が終わった第三次に行われる並行読書を、部分的に第二次の単位時間内に取り入れ、単元を貫く言語活動と密接に関連付けて指導することの必要性を述べている。

そこで、本研究では、教科書教材で学んだ読みを自分の推薦したい本の読みへ転用しやすくするため、第二次で並行読書を行う。水戸部の論を基に考えた、本単元における言語活動の流れを図1に示す。



図1 本単元における言語活動の流れ

また、本研究の2（3）の力の定義を受けて、推薦文を書く際の指導内容を次に示す。

- ・ 目指す推薦文として、教師の書いた推薦文のモデルを示す。
- ・ 推薦・評価の言葉の語彙リストを参考にさせる。
例：引き込まれていく、胸を打たれる、～について学べる、～を訴えかけている、～な人におすすめ 等
- ・ 正しい引用の仕方を練習させる。

本研究における推薦文を書く際の指導内容

（5）本研究における指導の工夫を示す研究構想図

以上の文献研究を基に、本研究の研究構想図を作成し、図2に示す。まず、「6つの読みの観点」で整理・分析して読むことにより作品の特徴を捉える。次に、その特徴を引用した部分に対する自分の考えを根拠として推薦理由を書くことで、理由や根拠を明確にして自分の考えがまとめられると考える。

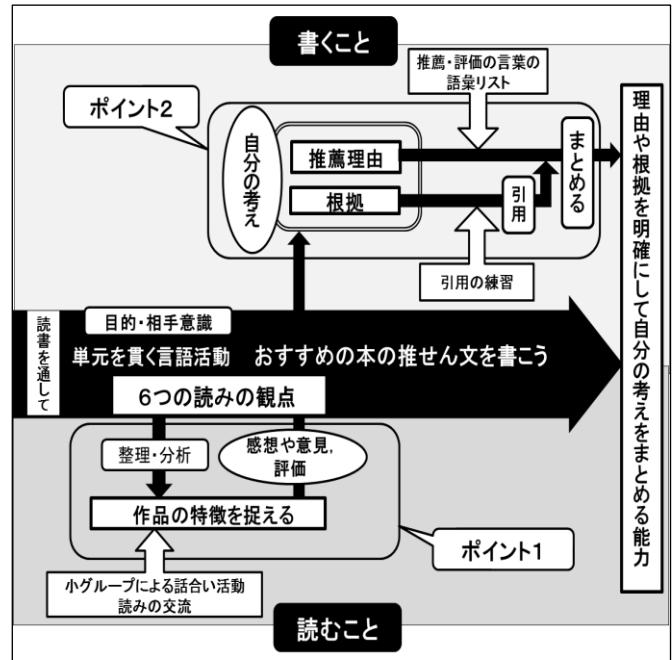


図2 本研究における指導の工夫を示す研究構想図

III 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

文学的な文章を「6つの読みの観点」で読み、推薦文を書く言語活動を取り入れれば、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめられる能力を育成することができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法を表4に示す。

表4 検証の視点と方法

	検証の視点	方法
ポイント1 作品の特徴の整理・分析	○作品の特徴を捉えているか。	プレテスト ポストテスト 事前アンケート
ポイント2 理由や根拠の明確化	○引用した語句や文を用いて、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめることができたか。	事後アンケート 推薦文ノート 授業記録

IV 研究授業について

1 研究授業の概要

- 対象 所属校第6学年（1学級31人）
- 単元名 文学的な文章を読んで理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめること——小学校時代に読みたい一冊を推せんしよう——教材文：「ヒロシマのうた」（『新しい国語 六下』東京書籍 平成24年）
- 目標 文学的な文章を読んで、作品の魅力だと考えたことについて、理由や根拠を明確にして自分の考

えをまとめることができる。

2 指導計画 (全10時間)

次	時	主な学習活動	並行読書 自分の推奨したい本を読む。
一	1	教師の推薦文を読み、本の魅力が伝わるような理由や根拠が明確な文章について話し合い、推薦文を書く活動に意欲をもつ。	
二	2	「ヒロシマのうた」を読み、魅力だと考えたところについて感想を書く。	
	3	・「6つのおすすめポイント」の例示や見つけ方について知る。 ・「ヒロシマのうた」を「6つのおすすめポイント」で読み練習をし、自分はどのおすすめポイントで推薦できそうかを考える。	
二	4	「ヒロシマのうた」を自分が選んだ「6つのおすすめポイント」別に編成した小グループで話し合い、理由や根拠を明確にして発表できるようにまとめる。	
	5	・グループの「おすすめポイント」で推薦文を書くためのコツをまとめる。	
三	6	・「ヒロシマのうた」の「おすすめポイント」を学級でグループごとに発表し、読みやその観点で推薦文を書くコツを交流する。	
	7	・「ヒロシマのうた」の推薦文を「6つのおすすめポイント」を基に、理由や根拠を明確にして書く。	
三	8	・自分のおすすめの本の推薦文を「6つのおすすめポイント」を基に、理由や根拠を明確にして書く。	
9	・友達と推薦文を読み合う。		
10	・これまで学習してきたことを振り返り、「本の推薦文を書くコツ事典」にまとめる。		

V 研究授業の結果分析と考察

1 視点1 作品の特徴を捉えることができたか

(1) 児童が作品を読む際に用いた観点

作品の特徴を捉えるには、本を読む際の観点が複数あった方が、その作品の特徴をより確かに捉えられると考える。そこで、児童のプレテスト・ポストテストの推薦文の記述から、「6つの読みの観点」を基にして、一人一人の児童が用いた観点の個数を図3に、また、観点ごとに、それを捉えることができた人数を図4に示して検証する。

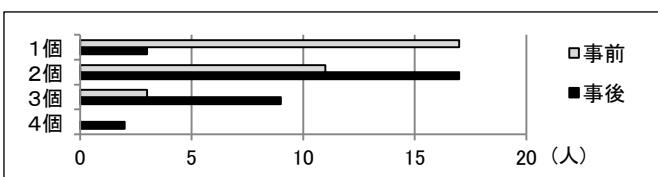


図3 児童がテストの推薦文で用いた読みの観点の個数

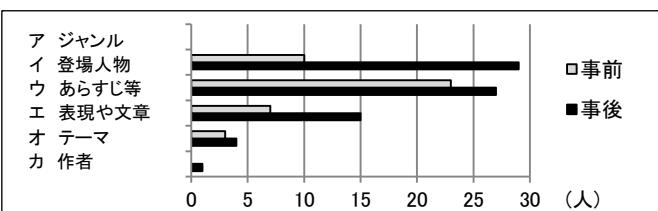


図4 テストの推薦文で用いた観点ごとの人数

図3から、事前は、一つの観点でのみ特徴を捉えている児童が31人中17人と最も多かったが、事後は、複数の観点から作品の特徴を捉えている児童が増加した。推薦文で用いた観点を分析すると、図4から、

どの観点も増加していることが分かる。

また、テストでは記述のなかった「ジャンル」の観点について、並行読書の推薦文では作品のよさとして捉えられている児童が4人いた。

「三銃士」ぼくがまずこの本を選んだ理由は、アクションがありそうだったからです。でも①読んでいるとそのうち、アクションだけでなく、友情や恋愛などさまざまなジャンルが入っていることが分かりました。ぼくは、それが魅力だと思います。(略)

「ジャンル」の観点で推薦文を書いた児童の記述

下線部①のように、ジャンルの観点で作品の特徴を捉えていることが分かる。

次に、アンケートの「本をすすめるとしたら、その本のどんなところをすすめるとよいと思うか」という質問で、一人当たりの児童が「6つの読みの観点」から選択した観点の個数の結果を図5に示す。

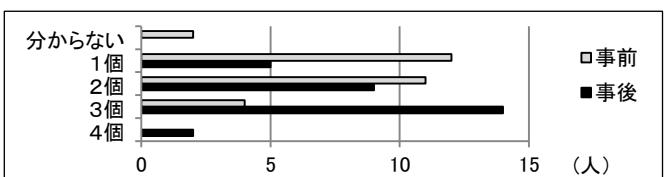


図5 アンケートで児童が選択した観点の個数

図5から、児童が選択した観点の個数が増加していることが分かる。この結果から、より幅広い観点で読むという意識が高まったと考える。事前では、観点を選択できなかった児童も、事後には、2個の観点を選択することができるようになった。アンケートでの観点の個数が増えた児童が、授業の振り返りで「6つのおすすめポイントを考えながら読めるようになったので推せん文が書けるようになった。」と述べている。

これらのことから、読みの観点を示すことによって、複数の観点から読むことができ、幅広い観点で作品の特徴を捉えられるようになったと考える。

(2) 児童の初発の感想と推薦文の記述から

児童が幅広い観点で作品を捉えることによって、読みはどのように変容したのか、教材文「ヒロシマのうた」の児童の初発の感想と推薦文の記述から分析する。捉えた観点を図6に示す。

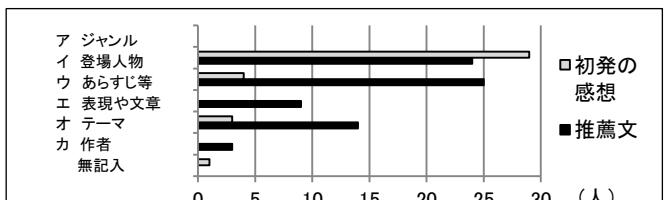


図6 教材文「ヒロシマのうた」の初発の感想の観点と「ヒロシマのうた」の推薦文の観点

初発の感想では、登場人物を観点として読んでいる児童が29人と最も多かったが、推薦文を書く段階では、登場人物以外の観点でも作品の特徴を捉えた児童が増えている。初発の感想で、登場人物を観点としていた児童 a, b の推薦文の記述を表5に示す。

表5 「ヒロシマのうた」の初発の感想と推薦文の記述

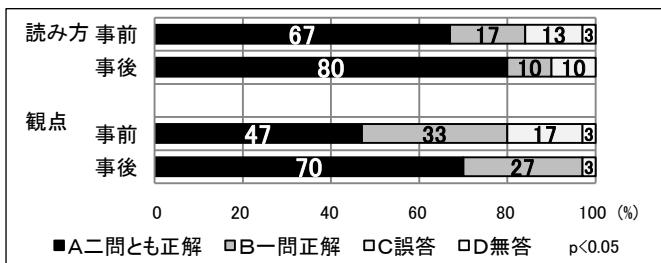
初発の感想		推薦文
児童 a	ヒロ子が、「会ってみたいな…。」と言うところで、実の母の話を聞いてもなかなかヒロ子の弱さがわかりました。母に会ってみたいと思うヒロ子の悲しい気持ちがあつたのだと思いました。	この物語の最後「汽車はするどい汽笛を鳴らして、上りにかかるいました。」と書かれています。私は、「上った先」には何があるのだろうと思いました。何度も読んでいると、「上った先」には新しい未来があるのではないか、と考えました。戦争のおそろしさ、人の強さのわかるこの物語をぜひ読んでください。
児童 b	ぼくは、この水兵さんはとてもやさしい人だと思いました。理由は、みかけた子どもなのにあづけて、ラジオできただけで思い出して(略)そこまで子どもにするところがやさしくてすごいと思いました。	ぼくは、この「ヒロシマのうた」のテーマはこのヒロシマは平和になったということが作者は言いたいのだと思います。最初の方では、戦争のおそろしさを伝えるような表現を使っていて、その後には、ヒロ子ちゃんが前向きに生きていこうとしていたからです。

児童 a は、ラストの文章を観点として読むことで、初発の感想では捉えられなかつことについて、分析的により深く考えることができている。また、児童 b は、「テーマ」と「作者」の観点を関連付けて考えたり、作品の全体の「表現」に着目したりすることで、複数の観点を関連付けて作品の特徴を深く分析的に捉えようとしている。児童 a, b がこのように変容したのは、教材文を「6つの読みの観点」で読んだり、他の観点で読んだ友達と交流したりする学習活動による効果であると考える。

以上のことから、幅広い観点で作品を読むことにより、分析的に作品の特徴を捉えられ、読みを深めることができたと考える。

(3) 推薦文を読む際に捉えた観点

プレテスト・ポストテストで、「二人の推薦文を比べて読み、二人の読み方の違いを捉えることができるかどうかをみる」設問と、「二人の推薦理由（観点）を捉えることができるかどうかをみる」設問の結果を図7に示す。前者は、平成25年度全国学力・学習状況調査のB問題の設問で、後者はそれを基に作成したものである。



二つの設問とも、B評価以上の児童が増加し、C評価の誤答やD評価の無答が減少している。ここで、事前は、図7の読み方の設問で無答、観点の設問で誤答だったが、事後はどちらもB評価となった児童 c の記述から考察する。

推薦文を読むときは、その人がどのおすすめポイントかを考えよう。おすすめポイントは、全部で6つあります。この6つの中からどれが使われているか、読んで考える。

児童 c の記述

このように、友達の書いた推薦文を読む際に、観点を手立てに読み方を分析することができている。これは、次のような学習活動が有効であったと考える。「6つの読みの観点」を基に、教師が書いた推薦文のモデルが、どの観点で書かれているかを考えたり、「ヒロシマのうた」をグループで観点を決めて読み、その読みを交流する際に、友達がどの観点で読んでいるかをクイズにして考えたりする活動を取り入れた。このような活動を通して、推薦文を読む際に、観点をもって読み、記述された情報を整理して、分析しながら読む方法を身に付けてきたためだといえる。つまり、観点によって他者の推薦文を分析的に読み取る力が高まったと考える。

以上のことから、「6つの読みの観点」を示したことが、作品の特徴を捉え、読みを深めたり、推薦文に書かれた作品の特徴を捉えたりすることに有効であったと考える。

2 観点2 引用した語句や文を用いて、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめることができたか

(1) 児童が書いた推薦文の記述内容

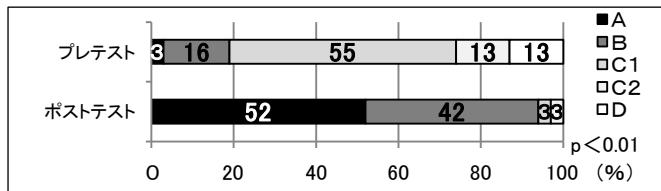
推薦文の「理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめられる能力」を検証する判断基準を次ページの表6に、プレテスト及びポストテストの推薦文の評価結果を次ページの図8に示す。

プレテストでは、語句や文を引用して根拠とし、自分の考えを書くことができる児童は1名であった。C1評価では、「感動しました。ぜひ読んでください。」などと書いていても、根拠が書けていないもののが多かった。C2評価では、あらすじを書く部分において語句や文を引用しているだけで、自分の考えを書いてないものがほとんどであった。また、引用部分をかぎでくくっていないものや、引用が正確でないものがあった。しかし、ポストテストでは、自分の推薦理由を、語句や文を正しく引用しながら

根拠として書くことができる児童が増えた。

表6 「理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめられる能力」を検証する判断基準

段階	判断基準
A	①推薦理由について自分の考えを書いている。 ②推薦理由について、語句や文を引用している。 ③相手意識をもって効果的に推薦する表現ができている。
B	①推薦理由について自分の考えを書いている。 ②推薦理由について、語句や文を引用している。
C 1	推薦理由について自分の考えを書いているが、語句や文を引用していない。
C 2	語句や文を引用しているが、推薦理由について自分の考えを書いていない。
D	上記以外の解答



では、自分のおすすめの本の推薦理由を、根拠を明確にして書くことができているのかを、プレテストでD評価だった児童dの自分のおすすめの本の推薦文の記述から分析する。表7に示す。

表7 児童dのプレテストと自分のおすすめの本の推薦文

プレテストの推薦文	自分のおすすめの本の推薦文
物語のあらすじは、足がいたいじんざに、毎日、チョコをあげていて、いよいよあしたサーカスがおわる時、その男の子が「あしたくるよ」と言い、がんばろうとしていたじんざだが、(略)	「雪渡り」この物語はきれいな表現がたくさん出でています。(略)きらきら銀色に光る雪のことを、「銀の雪」と書き、雪が日光に当たるときには、「日光が当たる所には、銀の百合が咲いたように見えました。」などと書いてあります。ぼくは状況が分かりやすいと思いました。みなさんにも表現に注目してこの物語を読んでもらいたいと思います。

児童dは、プレテストでは自分の考えを書くことができなかった。しかし、自分のおすすめの本の推薦文では、観点をもって読むことで、優れた表現に着目し、根拠となる語句や文を引用して、相手意識をもって推薦できるようになった。

次に、プレテストでC1評価でポストテストでA評価になった児童eの推薦文の記述から分析する。

「キャプテンはつらいぜ」みなさんは、物語を読んで心に残るせりふに出会ったことがありますか。一つ目の魅力は、主人公の友達の秀治です。(略)秀治が「おまえに打たれたって、あの三人をノックアウトして、一点も取らせなきや、それでいいじゃねえか。」と言ったところで、私はこのチームのピッチャーはおれにまかせろという気持ちが伝わってきて感動しました。二つ目の魅力は文章の書き方です。野球の話なのに、最初は主人公の通信簿の話から始まって、途中流れが変わるので心を引きつけられました。(略)私は、この本を読んでいると、人間には悪い所だけじゃなくていいところも絶対一つはあるんだということが感じられました。友達とうまくいってない人におすすめです。

児童eの自分のおすすめの本の推薦文

下線部②のように、文章を引用して根拠とし、自分の考えをまとめ、下線部③のように相手意識をも

って推薦文を書くことができている。児童eは、単元末の振り返りに、「私は、自分の考えを書くのがきらいでいつも変な文章を書いていたけど、今回の学習で自分の考えをまとめて書けるようになりました。これからも自分の考えをしっかり持ってしっかり書けるようになりたいです。」と記述している。これは、推薦文を書く際の指導や「推薦文を書くコツ」を教え合う活動により、自分の考えの書き方がつかめたためだと考えられる。

なお、授業の中で、児童から出された「推薦文を書くコツ」は、掲示して推薦文を書く際に活用した。表8に示す。

表8 児童から出された「推薦文を書くコツ」

おすすめポイント	おすすめポイント別の「推薦文を書くコツ」
登場人物	登場人物の状況、魅力、成長を考える。せりふを引用する。
あらすじ	物語のあらすじは、足がいたいじんざに、毎日、チョコをあげていて、いよいよあしたサーカスがおわる時、その男の子が「あしたくるよ」と言い、がんばろうとしていたじんざだが、(略)
クライマックス	中心人物が大きく変わったところをさがす。クライマックスは書かない。
表現や文章	何かを例えている文章や言葉に注目して、例えているものは何かを考える。
テーマ	登場人物同士の関係からさぐる。

さらに、D評価からB評価になった児童fの推薦文の記述から分析する。

プレテストの記述
いよいよサーカスで、おとこのこが「あしたサーカスに行く。」と言つて、その本番のときにおとこのこのアパートが火事になつて、ライオンがとびだしてウォーとさけんで、ライオンのすがたがみえなくなつた。
ボストテスの記述
④ぼくはクライマックスを使いました。この話の「じんざはすばやくだきかかえて、外に出ようとした。けれども、表はもう、ほのおがぬうつと立ちふさがつてしまつた。」のところが感動しました。理由は、じんざと男の子の友情に感動しました。ぼくはじんざの気持ちがわかるような気がします。涙ができるほど感動しました。この本は男の子とじんざの友情に感動する本なのでおすすめします。

D評価からB評価になった児童fのテストの記述の変容

児童fは、プレテストにおいて、何をどう推薦するのかという自分の考えを明確にすることができるない。しかし、ポストテストでは、下線部④のように、自分で「クライマックス」という観点を意識して読もうとしていることが分かる。

児童fの「推薦文を書くコツ事典」における記述を図9に示す。これは単元末に、学習したことをまとめたものである。

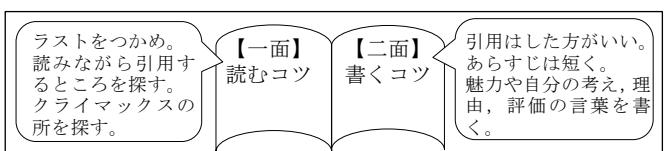


図9 児童fの「推薦文を書くコツ事典」の記述

このように、努力を要する児童にとって「読みの観点」が本のよさを見付ける段階で役立ったと考え

られる。しかし、研究授業では「クライマックス」を「中心人物が大きく変わったところ」と定義していたのに対して児童 f は、クライマックスを正確に捉えられなかつたと考えられる。観点によって書く内容を見付けた児童に対して、更に分析的に読むことができるための手立てを考えていく必要がある。

(2) 児童の意識の変容

まず、「書くこと」における児童の意識をアンケートから考察する。図10は、「引用して書くことが難しい」「書くことは難しくない」という選択肢別回答の結果である。

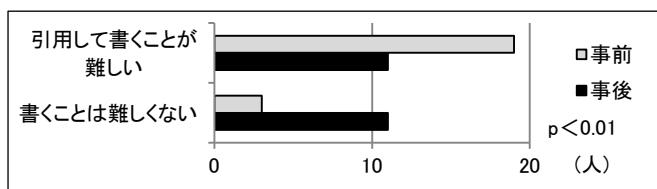


図10 「書くこと」における児童の意識

「引用して書くことが難しい」と回答する児童が減少し、「書くことは難しくない」と回答する児童が増加した。これは、推薦文を書くコツを教え合う活動や、引用の練習、推薦・評価の言葉の語彙リストなどの手立てによって、書くことへの抵抗感が軽減されたためだと考える。

次に、児童の単元末の振り返りから分析すると、読むときや書くときに文章から根拠を見付け、自分の考えの理由にして書くということを児童自身が自覚している次のような記述が見られた。

- わたしは、推せん文を書くときに引用したり、あらじを短く書いたり、自分の考えを書いたりすることができますようになりました。
- この学習を通して、ぼくは一つの物語をよりくわしく、より深く読むことができるようになりました。そして、他の本の推せん文も書けるようになってすごくよかったです。
- 文章を読むときのコツがわかって、文章を読む目がかわった。たとえている文章、キーワード、人物の関係のわかる文章をすぐに見つけられるようになった。
- 6つのおすすめポイントが分かって、推せん文が書きやすくなつた。

児童の単元末の振り返りの記述

このように、観点をもって読むことは、どのように推薦したらよいのか分からぬ児童の手立てとなり、書く内容を具体化することに有効であると考える。さらに、自分の考えの根拠を、引用した語句や文を使って明確に書くことに役立つといえる。

以上のことから、引用した語句や文を用いて、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力が向上したと考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

文学的な文章を「6つの読みの観点」で読み、推薦文を書く言語活動を取り入れることは、理由や根拠を明確にして自分の考えをまとめる能力を育成することに有効であることが明らかになった。

2 今後の課題

- 発達段階や単元によって、「6つの読みの観点」のうち重点を置く観点を精選し、どの観点でも読めるように継続的に指導する。
- 書いた文章に表れた「読むこと」のつまづきを指導に生かしたり、友達同士で作品の分析を交流してから書かせたりするなど、「書くこと」と「読むこと」の関連指導を螺旋的に行い、指導の効果を高める研究をしていく必要がある。

【引用文献】

- 文部科学省(平成20年a):『小学校学習指導要領』東洋館出版社 p.25
- 文部科学省(平成20年a):前掲書 p.26
- 文部科学省(平成20年b):『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 p.67
- 国立教育政策研究所(平成24年):『全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて(小学校編)』前掲書 p.15
- 文部科学省(平成20年b):前掲書 p.79
- 文部科学省(平成20年b):前掲書 p.86
- 水戸部修治(2013a):『単元を貫く言語活動のすべてが分かる!小学校国語科授業&評価パーソナルガイド』明治図書 p.114
- 文部科学省(平成20年b):前掲書 p.92
- 国立教育政策研究所(平成25年):『平成25年度全国学力・学習状況調査報告書小学校国語』 p.69
- 文部科学省(平成20年b):前掲書 p.83
- 水戸部修治(2013b):「本が大好きな子どもを育てる、読書活動を取り入れた読むことの授業づくり」『実践国語研究No.316』12/1月号明治図書 p.19
- 水戸部修治(2013c):「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりーその更なる展開に向けてー」『実践国語研究No.321』10/11月号明治図書 p.71
- 水戸部修治、澤井陽介、笠井健一、村山哲哉、直山木綿子、杉田洋(2012):『教科調査官が語るこれからの授業 小学校 言語活動を生かし「思考力・判断力・表現力」を育む授業とは』図書文化社 p.7